

名古屋大学 農学国際教育研究センター ニュース

令和1年12月1日発行 通巻36号(年2回発行)

発行/名古屋大学 農学国際教育研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<https://icrea.agr.nagoya-u.ac.jp/>

e-mail:icrea@agr.nagoya-u.ac.jp

第18回オープンフォーラムを開催

農学国際教育研究センターは、2019年10月1日、第18回オープンフォーラム「アフリカにおける持続可能な開発への科学技術による貢献～名古屋大学の挑戦～」を野依記念学術交流館で開催しました。2015年9月に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）は、貧困や飢餓の撲滅、エネルギー、気候変動対策、平和的社会の実現など、17の目標と169のターゲットから成る国際目標であり、開発途上国のみならず先進国を含むすべての国々が達成に向けて努力することとされています。特に飢餓や貧困、エネルギー、教育問題が深刻なサハラ以南アフリカは、干ばつや洪水など、地球温暖化による影響も受けやすく、多くの支援を必要としています。アフリカが直面している持続可能な開発にかかわる諸課題の解決や、SDGsの達成に向けたよりよい政策決定に資する科学的根拠の提供のため、科学技術イノベーション（Science, Technology and Innovation: STI）を一層有効に活用するべきであると言われています。

そこで、今回のオープンフォーラムでは、名古屋大学で実施されているアフリカにおけるSDGs達成への貢献を目指す研究プロジェクトの成果と今後の展望を紹介し、研究成果の応用展開について議論することを目的としました。オ

ープンフォーラム冒頭に行われた松尾清一総長および土川覚大学院生命農学研究科長の挨拶に引き続き、山本智久文部科学省科学技術・学術政策局国際総括係長による基調講演があり、持続可能な開発への科学技術による貢献（STI for SDGs）の推進に係る日本政府の取組状況が説明されました。続いて行われた研究プロジェクトの紹介では、まず、楨原大悟農国センター准教授が、ケニアに研究拠点を設けて展開しているアフリカ稲作研究のこれまでの成果と今後の展望について報告を行いました。続いて、芦荻基行生物機能開発利用研究センター教授により、イネ遺伝子研究の成果に基づき開発された有望イネ系統（WISH系統）を農国センターと連携してアフリカに配布する計画が紹介されました。土屋雄一朗トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授はアフリカの穀物生産に甚大な被害をもたらしている寄生雑草ストライガを防除する自殺発芽剤の開発について、神田英輝大学院工学研究科助教は南アフリカにおける水処理システムと湿式抽出法による藻類の高効率燃料化の融合と実用化について、山田肖子アジア共創教育研究機構教授はアフリカの産業人材育成に役立つ技能評価法の開発と実践について、それぞれ講演を行いました。それぞれの研究分野の独創的なアプローチでアフリカにおける問題解決を進めるプロジェクトに関する報告を受けて、アフリカにおけるSTI for SDGsを実現するために考慮すべき課題や将来の方向性について活発な議論展開されました。最後に藤原浩昭科学技術振興機構国際部参事役、浅沼修一国際協力機構農村開発部国際協力専門員および渡辺芳人名古屋大学審議役の3名から講評として、多くの提案と励ましを頂き、盛会のうちに閉会となりました。（楨原大悟）



第18回オープンフォーラム参加者